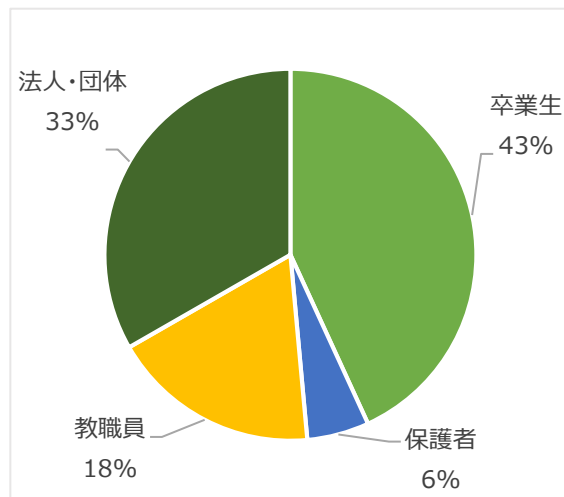


信州大学知の森基金 平成 27 年度事業報告

1 寄附の受入状況

平成 27 年度の寄附受入総額は、7,759,495 円となった。内訳は、銀行振込やクレジットカードによる寄附が 7,176,583 円、古本による寄附（古本募金）が 582,912 円であった。古本募金は、平成 27 年度から受入を開始した取組みで、寄附者が不用となった本を提携する企業（バリューブックス社）に送ることで、バリューブックス社で本を買い取り、その金額が知の森基金へ寄附されるというものである。

寄附者の属性別の寄附金額ベースでの構成を見ると、平成 27 年度も平成 26 年度と同様に、卒業生が 43%と半数近くを占めている一方で、保護者の比率が 3%から 6%へと向上している。また、平成 27 年度の特徴として、法人や団体による寄附の増加が挙げられる。平成 28 年度以降は、従来から多額の寄附をいただいている卒業生へのアプローチを継続して行うとともに、知の森基金後援会への働きかけを行うなど法人・団体による寄附額の向上を図ることで安定的な基金運営に資する寄附の獲得を目指す。



2 支援の実施状況

2.1 信州大学知の森基金奨学金

平成 27 年度の信州大学知の森基金奨学金では、①入学サポート奨学金と②大学院奨学金の 2 種類の支援を実施した。

2.1.1 入学サポート奨学金

信州大学へ入学を希望しながら経済的理由により進学を断念せざるを得ない高校生に対して、入学時に必要となる学資の一部（40 万円）を支援する。用途に制限を設けていない給付型奨学金であることが特長で、入学金・授業料などの他、新生活を始めるにあたって必要な学資に充当することができる。

支援実績：40 万円×6 名



2.1.2 大学院奨学金

優秀な若手研究者の支援を目的として、本学の優秀な修士 2 年生がそのまま本学博士課程への入学を希望する際に、学費の一部（30 万円）を奨学金として給付する。

支援実績：30 万円×6 名

2.2 グローバル人材育成支援

平成 27 年度のグローバル人材育成支援として、①学生による短期海外活動支援②学生による中長期海外活動支援③外国人留学生への経済支援の 3 種類の支援を実施した。

2.2.1 学生による短期活動海外支援

国際社会への視野を広げるモチベーションづくりとして、各学部、グローバル教育推進センター等が企画するプログラム等に対して往復渡航費の一部を支援するなどの経済的支援（1名あたり最大で7万円）を行う。

支援実績：15プログラム、107名、総額683万円

2.2.2 学生による中長期海外活動支援

交換留学や私費留学などで長期間にわたり海外に渡航する目指す学生に対して、奨学金（1人あたり6万円/月、JASSOによる支援制度と同等）を支給する。

支援実績：13名、総額375万円

2.2.3 外国人留学生への経済支援

信州大学への留学を希望する意欲的で優秀な質の高い外国人学生に対して、奨学金（大学院生：1人あたり6.5万円/月、学部生：1人あたり4.8万円/月）を支給する。

支援実績：8名×30万円（学部生）、8名×48万円（大学院生）

3 知の森基金収支報告

平成27年度の知の森基金の収支は下記の通りです。

(単位：円)

寄附受入額	7,759,495	
学内負担金	28,017,405	
収入合計		35,776,900
支援事業費	21,020,000	
支援事業実施に付随する活動経費	2,884,808	
支出合計		23,904,808
収支合計（次年度へ繰り越し）		11,872,092
H27年度末時点での基金原資		192,759,727

寄附受入額（古本募金を含む）は、7,759,495円であった。それに加え、学内負担金として28,017,405円の収入があったため、知の森基金全体の収入額は35,776,900円となった。一方で、支出額は、奨学金及びグローバル人材育成支援を合わせ支援事業に21,020,000円、支援事業実施に付随する活動経費として2,884,808円、合計で23,904,808円を平成27年度に支出した。

以上の結果、単年度の収支では11,872,092円のプラスとなり、平成28年度へ繰り越す。一方で、平成27年度の収入のうち約1400万円は臨時収入と呼べるものであるため、今後も平成27年度と同等の支援事業を展開するには、恒常的な寄附額増加策を検討する必要がある。

今後、平成27年度の業務内容及び会計処理について、信州大学知の森基金規程第6条に定められた業務監査および内部会計監査を行う予定である。